

# 特別支援学校における障がい種に応じた 専門性の向上と指導の充実に関する研究

— 自立活動指導資料（聴覚障がい）の作成を通して —

## 《補助資料目次》

【補助資料1】「特別支援教育における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（聴覚障がい）」に係る質問紙調査	
●聴覚障がい教育における教員の専門性に関する調査	1
【補助資料2】小学部第6学年自立活動学習指導案	5
【補助資料3】小学部第1・2学年自立活動学習指導案	16
【補助資料4】「特別支援教育における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（聴覚障がい）」に係る質問紙調査	
●「自立活動指導資料（聴覚障がい）」（試案）に関する調査	29

令和4年3月  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生  
所属校 岩手県立盛岡聴覚支援学校  
及 川 よ り こ

「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究  
(聴覚障がい)」に係る状況等調査用紙

＜調査用紙の記入に当たってのお願い＞

●調査の回答について

この調査は、幼稚園、小学部、中学部、高等部（専攻科含む）の指導教諭、教諭、講師、非常勤講師の先生が御回答ください。

●調査結果の取扱いについて

- (1) 当該研究において調査結果を活用します。
- (2) 調査結果は、研究報告書、教育研究発表会等で公表します。
- (3) 公表に当たっては、特定の個人を識別することはありません。

●提出方法、締め切り

調査用紙は、8月19日（木）までに、各学部の研究部員へ提出をお願いします。

【フェイスシート】令和3年7月末現在

所属学部に○	幼	小	中	高
氏名				
特別支援教育通算経験年数	年		か月	
聴覚障がい教育通算経験年数	年		か月	
特別支援学校教員免許状 「聴覚障害者に関する領域」の有無	有り	無し		
		取得する予定（有り 無し）		
ご自身の指導の中で使用頻度の高い コミュニケーション手段 (複数回答可)	聴覚口話	手話・指文字	文字・筆談	
	その他（ ）			
	※写真、イラスト、身振り・手振り 等			

「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（聴覚障がい）」に係る状況等調査

この調査は、聴覚障がい教育における教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究に係る調査です。以下、研究の主旨を御理解いただき、調査への御協力をお願いいたします。

＜研究主題＞

特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究  
 —自立活動指導資料（聴覚障がい）の作成を通して—

この研究では、聴覚障がい教育における教員の専門性についての状況等を調査し、その結果を参考として「自立活動指導資料（試案）」の作成に役立てます。そして、作成した「自立活動指導資料（試案）」を活用した授業実践を通して、教員の専門性の向上と指導の充実を図ることを目指します。

この研究でいう教員の専門性の向上は、「専門的な知識（聴覚障がい教育理論）」と「専門的な技能（授業実践）」を併せもつことによって図られるものと捉え、専門的な知識を「聴覚障がい教育理論」、専門的な技能を「授業実践」と位置づけました。さらに、聴覚障がい教育の視点から整理したものを「専門性の要素」と捉え、仮として設定し下表に示しました。知識と技能で関連があると思われるものを横並びにしています。参考文献は下段のとおりです。

聴覚障がい教育における教員の専門性（仮）

		聴覚障がい教育の知識	聴覚障がい教育の技能
		聴覚障がい教育理論	授業実践
専門性の要素	聴覚障がいの理解 (生理学・医学・心理学)		保有する聴覚の活用 (補聴器、人工内耳の管理)
	聴力測定の知識（オーディオグラムの見方）		
	補聴器、人工内耳の管理		
	聴覚障がい児の コミュニケーション方法		意思の相互伝達 (音声、手話、指文字、文字等)
			発音・発語指導
			言語指導（的確な言語概念の形成）
	聴覚障がい児の 特性と配慮事項		教科指導の方法
			教材教具の工夫
			ICTの活用
			進路指導（キャリア教育）、職業教育
重複障がい児の特性と配慮事項		重複障がい児への指導	
聴覚障がい児の福祉制度 早期教育、乳幼児教育相談			

参考文献

- ◆文部科学省（2018）、「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」
- ◆文部科学省（2019）、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
- ◆文部科学省（2019）、「聴覚障害教育の手引—言語に関する指導の充実を目指して—」
- ◆国立特別支援教育総合研究所（2020）、「特別支援教育の基礎・基本2020」、ジアース教育新社
- ◆全国聾学校長会（2011）、「聾学校における専門性を高めるための教員研修用テキスト」

問1 仮として設定した「専門的な知識」と位置付けた「聴覚障がい教育理論」(表の左欄)の項目について伺います。**聴覚障がい教育全体**で考えたときに、「専門性の要素」として、他に考えられるものがあれば、その理由も併せて、回答欄に御記入ください。

他に考えられる専門性の要素	理由

問2 仮として設定した「専門的な技能」と位置付けた「授業実践」(表の右欄)の項目について伺います。**聴覚障がい教育全体**で考えたときに、「専門性の要素」として、他に考えられるものがあれば、その理由も併せて、回答欄に御記入ください。

他に考えられる専門性の要素	理由

問3 これまでに、御自身が自立活動の指導を行う上で、悩んだり、難しさを感じたりしたことを具体的に御記入ください。

例：実態把握、目標設定、指導内容、支援方法、評価、単元計画 等

問4 聴覚障がい教育における教員の専門性の向上と指導の充実のために、今後聴覚障がい教育全体（学校全体）で必要だと考えることを御記入ください。

## 小学部第 6 学年自立活動学習指導案

日時：令和 3 年 9 月 27 日（月） 5 校時

令和 3 年 9 月 28 日（火） 5 校時

令和 3 年 9 月 29 日（水） 5 校時

対象：岩手県立盛岡聴覚支援学校

小学部 6 年 3 名

場所：小学部 6 年教室

指導者：及川よりこ（T 1）、佐々木朝香（T 2）

## 1 題材名 「創造しよう！おもしろ漫画作文！！」

## 2 題材について

## (1) 児童について

対象児童は、小学部通常学級 6 年生 3 名である。3 名とも補聴器や人工内耳を装着しており、本校には幼稚部から在籍している。3 名の聞こえの様子や発音の明瞭さは、比較的良好である。休み時間には、3 名が互いに分かる話題を互いに提供し合い、音声で会話を楽しむ様子が見られる。給食時間など、声を発することができない状況では、手話ではなく指文字を使って会話をしている。

学習場面では、補聴援助システムを使用し、保有する聴覚を活用して学習を進めている。児童の発言は音声のみのことが多いが、手話や文字・イラスト等の視覚的手がかりを用いて理解を深めている。体育や音楽等の実技教科は学習意欲が高く、積極的に準備をする姿が見られるが、思考したことを言葉で表現する教科や読書活動への苦手意識がある。しかし、最高学年になり下級生が増えたことから、学部集会などの場面では、下級生に分かりやすい言葉を使ったり、手話や文字・イラストを発表資料に添えたりして、「みんなに伝わるように話す」ことを意識し、学校生活を送っている。

## (2) 指導について

対象児童は、3 名とも自分の考えを文章に表現することへの苦手意識があり、一日の感想を問うと、行動と簡易な感情表現の羅列になることが多い。また、助詞や動詞の活用などの誤りがあり、書字への苦手意識もある。しかし、教員と時間の順序に従って行動を確認し、言葉や表現の援助をすることで、音声で文章表現をすることができる。そこで、イラストや ICT などの視覚的教材を活用し、考えを順序立てて、音声又は手話で言語化することで、書くことへの抵抗感を軽減して取り組めるようにしたい。また、自分でイラストを見て説明したり、友達の考えを受け入れたりして、イラストから発展して物語を作ることに楽しさを感じることができるよう展開していきたい。

単元を通して、主な活動の前にすごろくインタビューの活動を取り入れる。そこで、他教科での学習語彙やイラストで描かれている名詞などを取り入れ、繰り返し言葉を受容したり、表出したりする場面を設定し、発達段階に応じて語彙の使用場面を増やしていきたい。すごろくインタビューの活動の中からも、その後の文章を考える活動の際のヒントを得ることができるよう、繰り返し取り上げる言葉を精選しながら進めていきたい。

### (3) 研究との関わり

本研究では、三つの手立てで研究を進める。手立て1では、聴覚障がい教育における教員の専門性について調査を行い、教員の専門性の要素を整理した。その調査結果を受け、研究の手立て2として、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「試案」という）を、次の構成で作成した。

○第1章 聴覚障がい教育の基本的理解

聴覚障がい教育に携わる上で必要な専門的な知識及び指導のポイントを示した。

○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（平成30年）」の聴覚障がいのある子供への具体的指導内容と留意点を整理した。

○第3章 自立活動と各教科との関連～小学部を中心に～

小学部の各教科での指導と自立活動との関連や指導のポイントを示した。

作成した試案は、研究の手立て3として、聴覚障がい教育の専門的な視点を踏まえた授業実践を通して、その有効性を検証する。本授業で活用する試案の内容は、次のとおりである。

○第1章 聴覚障がい教育の基本的理解

(5) 聴覚障がいのある子供のコミュニケーション方法

板書やコンピュータなどの情報機器 (pp. 14-15)

(6) 言語指導 (pp. 20-23)

○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

(2) 聴覚障がいのある子供の自立活動 (p. 44)

○第3章 自立活動と各教科との関連～小学部を中心に～

(1) 指導上の配慮事項 (p. 65)

(2) 各教科との関連 ①国語 (pp. 68-69)

まず、言語に関する実態把握として、試案の巻末に示した資料1・2「話し方・聞き方に関する指導段階表」を活用し、現時点での児童の実態を把握する。次に、資料3「自立活動目標設定シート①」を活用し、目指す姿や身に付けさせたい力について検討する。さらに、資料4「自立活動目標設定シート②」から、実践場面を想定し、指導の手立てを検討する。本授業では、相手に伝わる話し方を意識することができるよう、四コマ漫画やイラストなどの視覚教材を取り入れ、文章を考える力を高めたい。

試案の活用を通して、聴覚障がい教育における専門的な視点を踏まえた授業展開を図ることで、教員の専門性と指導の充実につながるものと考えている。

### 3 題材の目標（選定した自立活動の内容6区分27項目は関連順）

絵から読み取ったことを、手話や音声で表現することができる。

自分の経験や友達の意見を基に、自分の考えをまとめ手話や音声で表現することができる。

【人間関係の形成】(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

【コミュニケーション】(2) 言語の受容と表出に関すること。

(3) 言語の形成と活用に関すること。

4 児童の実態と本題材の目標

		A			B			C		
周波数		500Hz	1000Hz	2000Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz
聴力レベル (dBHL)	右									
	左	85	95	95	100	105	110			
装用時間値 (dBHL)		25	26	20	26	26	20	30	25	25
補聴器/人工内耳		右：人工内耳 左：補聴器			右：人工内耳 左：補聴器			右：人工内耳 左：人工内耳		
人間関係の形成	他者とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表後などに、聞き返しや質問をすることはあまりない。</li> <li>学習中の発言は、友達の応答の仕方を模倣して発言することが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表後に、意見を述べる友達の様子を見て、応答の仕方を確認し、模倣して発言する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表後には、意見や質問を積極的に述べることができる。</li> </ul>		
	他者の意図や感情の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な会話では、友達や教員の話を理解している。</li> <li>集団が大きくなると、話し手の話の内容を理解することが難しい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な会話では、友達や教員の話を理解している。</li> <li>集団が大きくなると、話し手の話の内容を理解することが難しい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な会話では、友達や教員の話を理解している。</li> <li>大きい集団では、話を理解しようという意欲をもって聞いている。</li> </ul>		
	自己の理解と行動の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の行動する姿や教員の指示を受け、さらに手順を確認してから行動することが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>的確に会話の内容を理解することが難しい。</li> <li>友達の行動する姿や教員の指示を受けて行動することが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の応答に、自分の経験を基に積極的に応答することができる。</li> <li>確認のため、自分の考えを教員に伝えてから行動することがある。</li> </ul>		
環境の把握	保有する感覚の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工内耳や補聴器、補聴援助システムを活用し、聴覚活用をしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>人工内耳や補聴器、補聴援助システムを活用し、聴覚活用をしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>人工内耳や補聴援助システムを活用し、聴覚活用をしている。</li> </ul>		
	感覚を総合的に活用した周囲の状況把握と状況に応じた行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示理解が不明確である。</li> <li>集会場面等では、事前に表現方法を確認した上で、手話と音声を用いて発表している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声のみの複数の指示は理解が難しい。</li> <li>集会場面等では、事前に表現方法を確認した上で、手話と音声を用いて発表している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声と手話を併用した指示を理解し、行動することができる。</li> <li>集会場面等では、事前に表現方法を確認した上で、手話と音声を用いて発表している。</li> </ul>		
	概念の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話や絵などを併用することで、言葉を理解する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>手話や絵などを併用することで、言葉を理解する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>手話や絵などを併用することで、言葉を理解する。</li> </ul>		
コミュニケーション	言語の受容と表出	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声、書字ともに助詞の間違いがある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な言葉の理解が苦手である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書字が苦手である。</li> <li>読書活動が苦手である。</li> </ul>		
	言語の形成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度は比較的高い。</li> <li>内容を考えることに時間がかかり、文章を書き進めることができないことがある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度は比較的高い。</li> <li>意味を理解していない語彙が多いため、考えを表現する際には、日常的に使用する言葉を繰り返すことが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度は比較的高い。</li> <li>音声で自分の考えを表現することができるが、それを書字に表すことに苦手意識がある。</li> </ul>		
	コミュニケーション手段の選択と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達とは音声での会話、下級生とは音声と手話を併用して会話をしている。</li> <li>小学部全体の活動場面では、手話や分かりやすい言葉を使おうという意識がある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達とは音声での会話、下級生とは音声と手話を併用して会話をしている。</li> <li>小学部全体の活動場面では、手話や分かりやすい言葉を使おうという意識がある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達とは音声での会話、下級生とは音声と手話を併用して会話をしている。</li> <li>活動場面や相手に応じ、音声の活用や手話の分かりやすさを考えながら伝えることができる。</li> </ul>		
本題材の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えたことを、音声や指差し等の自分なりの表現で伝えることができる。</li> <li>視覚的に整理したのを見ることと併せて、教員や友達の話す内容を理解することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えたことを、教員と整理しながら音声で表現することができる。</li> <li>手話や文字を見て、教員や友達の説明の内容を理解することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えたことを音声や手話で表現できる。</li> <li>教員や友達の説明を参考にしながら、自分の考えを表現することができる。</li> </ul>		



5 題材の指導計画（全3時間）

時	月日	学習活動	指導目標		
			個別の目標		
			児童A	児童B	児童C
1	9月27日(月) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>四コマ漫画や文章には起承転結の構成があることを知る。</li> <li>四コマ漫画の4コマ目を考える。</li> <li>四コマ漫画を文に表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四コマ漫画を見て、自分の考えを文に表すことができる。</li> <li>自分の考えを音声や文字で表出し、教員と一緒に文章の組み立てを考えることができる。【人】(2)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指さしや音声による単語で自分の理解していることを表出し、教員と一緒に文章を考えることができる。【人】(2)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵に注目し、自分の考えを音声で表すことができる。【人】(2)【コ】(2)(3)</li> </ul>
2	9月28日(火) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵から読み取った名称、事象を発表する。</li> <li>絵から読み取ったことを基に、絵には描かれていない背景について考え、話し合いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵から読み取ったことや感じたことを、手話や音声で表現することができる。</li> <li>友達の考えを音声、手話、文字等から読み取り、自分の感じたことと比較しながら文章を考えることができる。</li> <li>自分の考えを音声や文字で表出し、教員と一緒に文章を確認し表現することができる。【コ】(2)</li> <li>教員と一緒に手話や文字で友達の意見を確認することができる。自分の考えを表現することができる。【人】(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語で自分の理解していることを表出し、教員と一緒に文章を組み立てることができる。【コ】(2)</li> <li>教員と一緒に手話や文字で友達の考えを確認し、自分の考えと照らし合わせて考えることができる。【人】(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを、理由を述べて表現することができる。【コ】(2)(3)</li> <li>友達の考えと自分の感じたことの類似点や相違点を検討し、自分の考えを表すことができる。【人】(2)(3)</li> </ul>
3	9月29日(水) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵から発展して物語を考え、作文に表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えと自分の感じたことと比較しながら文章を考えることができる。</li> <li>自分の考えを文で表し、文の順序を考え作文を完成させることができる。</li> <li>友達の考えを手話や文字で教員と確認し、感想を述べることができる。【人】(2)</li> <li>自分の考えを音声や文字で表出し、教員と一緒に文章の組み立てを考えることができる。【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えと自分の感じたことの類似点や相違点を考え、表現することができる。【人】(2)</li> <li>自分の考えを音声で表出し、教員と一緒に文を考えることができる。【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えを踏まえた自分の考えを音声で表出し、教員と一緒に文章に表すことができる。【人】(2)(3)</li> <li>教員と一緒に文の順序を考えることができる。【コ】(2)(3)</li> </ul>

(注) 自立活動の内容6区分27項目の観点から指導目標を設定した。例えば、【人】(2)【コ】(2)(3)とは、【人間関係の形成】(2)他者の意図や感情の理解に関すること、【コミュニケーション】(2)言語の受容と表出に関すること、(3)言語の形成と活用に関することを略記している。p.18も同様。

6 展開（全3時間）

(1) 9月27日（月）1時間目／全3時間

指導目標：四コマ漫画を見て、自分の考えを文に表すことができる。

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 評価方法
			児童A	児童B	児童C		
導入 15分	<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読する。</p> <p>3 すごろくをする。 ・「〇〇の場合、どうする？」と書かれてあるマスを読み、答える。 ・すごろくを始める前に、児童もマスの質問内容を考え、付箋に書き、貼る。</p> <p>4 学習課題を確認する。 ・めあてを音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     ・四コマ漫画を見て、文章に表そう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。</li> <li>・児童が注目をしていることを確認してから話を始める。</li> <li>・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。</li> <li>・応答の仕方が分かるように、T1とT2で例示する。</li> <li>・発言者に注目するよう促す。</li> <li>・マスに書かれている文の内容を読むよう促す。</li> <li>・内容を理解しているか、T1が適宜質問し、確認する。</li> <li>・主な活動の際にすごろくで学習した語彙を確認できるように、T2は、質問と応答の様子をホワイトボードに記入する。</li> <li>・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたかを質問をし、確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。</li> <li>・自分の考えをスムーズに発表できるように、話し方の例を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。</li> <li>・自分の考えをスムーズに発表できるように、話し方の例を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれてある文の理解に専念できるように、漢字の使用に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジャー</li> <li>・紙板書</li> <li>・すごろく用紙</li> <li>・すごろく駒</li> <li>・付箋</li> <li>・筆記用具</li> <li>・さいころ</li> <li>・ホワイトボード</li> <li>・紙板書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを、音声や手話で発表している。（発表）</li> <li>・友達の発表を音声や手話、文字等から読み取り、自分の意見を発表している。（発表）</li> </ul>
展開 20分	<p>5 四コマ漫画のコマごとの内容の説明をする。 ・起承転結の構成を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に伝わりやすい例を用いて説明する。</li> <li>・手話を用いて意味理解を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマごとの変化を読み取れるよう、指さしをして注目する点を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマごとの変化を読み取れるよう、指さしをして注目する点を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマごとの変化を読み取れるよう、手話や音声で説明を加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「起」「承」「転」「結」カード</li> <li>・四コマ漫画</li> </ul>	

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( )：評価方法
			児童A	児童B	児童C		
展開 20分	6 順不同の四コマ漫画を順番通りに並べる。 ・iPad上で順番を入れ替え、理由を書き込む。発表する。 ・漫画の筆者の考えについて、感想や根拠を発表する。	・児童の発表の際、注目するよう促す。 ・児童の発言が他の児童にとって難しい表現だった場合、児童と発言の意図を確認しながら、T1が言葉を変えて伝えるようにする。 ・児童の発言が視覚的に共有できるように、T2が板書する。	・考えを表出することに専念できるように、教員の復唱を促し、文法について確認する。	・考えを表出することに専念できるように、指さしや単語での表出は、言葉を付け加える。	・考えを表出することに専念できるように、音声で自分の考えを表出するよう促す。	・「起」「承」「転」「結」カード ・四コマ漫画	・漫画から状況を読み取り、自分の考えを発表している。(発表)
	7 四コマ漫画の4コマ目のセリフを考える。 ・絵から読み取れる情報を根拠として、セリフを考える。	・T1は児童Bと児童C、T2は児童Aを中心に、音声や手話、文字等で考えを確認する。	・自分の考えを整理できるように、教員が児童の言葉を文字で示し、文章を組み立てることができるようにする。	・順序立てて考えることができるように、絵の要素を指さしながら進めるようにする。	・書字の苦手意識を軽減するために、言葉や漢字について、iPadのアプリや検索機能を用いて調べることを促す。	・iPad ・コマごとに分かれた四コマ漫画 ・四コマ漫画の原画	・漫画から状況を読み取り、自分の考えを言葉で発表している。(発表)
	8 四コマ漫画の絵を基に、文を表す。 ・4コマ目の絵を文に表す。	・書き方の例をT1が示し、文章に書き表しやすいようにする。 ・漢字辞典アプリなどを使うように促し、考えを言葉で表現することにのみ意識できるようにする。				・「起」「承」「転」「結」カード ・テレビ ・iPad	・自分の考えをまとめ、文章に表わしている。(行動観察、ワークシート)
終末 10分	9 完成した文を発表する。 ・音声や手話を用いて発表する。	・児童の発表の際、注目するよう声がけをする。 ・児童の発表後、完成した文をテレビに映し、児童の音声や手話表現に対応する言葉を確認できるようにする。	・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。	・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。	・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。	・iPad ・テレビ ・譜面台	
	10 挨拶をする。	・完成した作文を掲示し、学部の児童と教員に読んでもらい、「たのし賞」の表彰をすることを伝える。 ・振り返りのために、自分で書いた文や友達の書いた文を読むよう促す。				・たのし賞	

(2) 9月28日(火) 2時間目/全3時間

指導目標：絵から読み取ったことや感じたことを、手話や音声で表現できる。

友達の考えを音声、手話、文字等から読み取り、自分の感じたことと比較しながら文章を考えることができる。

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童A	児童B	児童C		
II 導入 15分	1 挨拶をする。	・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。				・ロジャー	
	2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読する。	・児童が注目をしていることを確認してから話を始める。 ・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。				・紙板書	
導入 15分	3 すごろくをする。 ・「〇〇の場合、どうする？」と書かれてあるマスを読み、答える。 ・すごろくを始める前に、児童もマスの質問内容を考え、付箋に書き、貼る。	・応答の仕方が分かるように、T1とT2で例示する。 ・発言者に注目するよう促す。 ・マスに書かれている文の内容を読むよう促す。 ・内容を理解しているか、T1が適宜質問し、確認する。 ・主な活動の際にすごろくで学習した語彙を確認できるよう、T2は、質問と応答の様子をホワイトボードに記入する。	・文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。 ・自分の考えをスムーズに発表できるよう、話し方の例を提示する。	・文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。 ・自分の考えをスムーズに発表できるよう、話し方の例を提示する。	・書かれてある文の理解に専念できるよう、漢字の使用に配慮する。	・すごろく用紙 ・すごろく駒 ・付箋 ・筆記用具 ・さいころ ・ホワイトボード ・紙板書	・自分の考えを、音声や手話で発表している。(発表) ・友達の発表を音声や手話、文字等から読み取り、自分の意見を発表している。(発表)
	4 学習課題を確認する。 ・めあてを音読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て分かったことを書こう。</li> <li>・友達の意見と自分の意見を比べてみよう。</li> </ul> </div>	・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたかを質問をし、確認を行う。					
展開 20分	5 絵を見て、描かれているもの(名称)を発表する。	・相互に理解できるように、T1は児童の発言を手話と音声で繰り返す。 ・文字と絵が対応して理解できるよう、T2は発言を付箋に書いて絵に貼る。	・言葉の理解を促すため、手話と指文字で確認するようになる。	・言葉の理解を促すため、手話と指文字で確認するようになる。	・言葉の理解を促すため、手話と指文字で確認するようになる。	・拡大イラスト ・付箋	・絵に描かれているものの名前を音声や手話で発表している。(発表)

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( )：評価方法
			児童A	児童B	児童C		
展開 20 分	6 絵を見て、描かれている様子(事象)を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互に理解できるように、T1は児童の発言を手話と音声で繰り返す。</li> <li>話合いの際に活用できるように、T2は発言を板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、言葉の表出が難しい場合は動作化するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、単語での表出には言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、単語での表出には言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大イラスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵に描かれている様子を表現している。(発表)</li> </ul>
	7 絵を見て、気付いたことをiPadに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えることが難しい児童には、指差しを促し、分かる部分を音声や手話で説明するように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、単語での表出は言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、指さしや単語での表出は、言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、書字については音声で確認しながら進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵に描かれている事象と事象を結び付けて考えている。(行動観察、ワークシート)</li> </ul>
	8 気付いたことを共有する。 ・画面共有する。 ・友達の意見と、自分の意見を比べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>T1は児童Bと児童C、T2は児童Aを中心に、考えたことを音声や手話、文字等で確認する。</li> <li>絵に描かれているものや様子を結びつけて考えるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見の内容を理解するために、要点を手話や文字で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見の内容を理解するために、要点を手話や文字で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見の内容確認のために、復唱を促したり、言葉を置き換えたりして確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を発表している。(発表)</li> <li>友達の意見を受容し、感想を発表している。(発表)</li> </ul>
終末 10 分	9 絵に描かれていない背景について話し合う。 ・児童が記入した画面をテレビに映し、意見を共有する。 ・絵を根拠に場所、時間、季節、登場人物の関係を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの進め方が分かるように、T1とT2で例示する。</li> <li>文章をまとめて発表することが難しい児童には、iPad上で印を付けるなどし、T2と一緒に考えをまとめる。</li> <li>発表の順番を工夫し、同意の発言のみで終わらないようにする。</li> <li>話合いを撮影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、単語での表出は言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを表出することに専念できるように、指さしや単語での表出は、言葉を付け加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手に注目し、発表の内容を理解している。(行動観察)</li> <li>友達の意見に対する自分の意見を発表している。(発表)</li> </ul>	
	10 学習課題を振り返る。 ・感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発表の際は、注目するよう声がけをする。</li> <li>児童の発言が他の児童にとって難しい表現だった場合、T1が表現を変えて伝えるようにする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	
	11 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習内容を伝える。</li> </ul>					

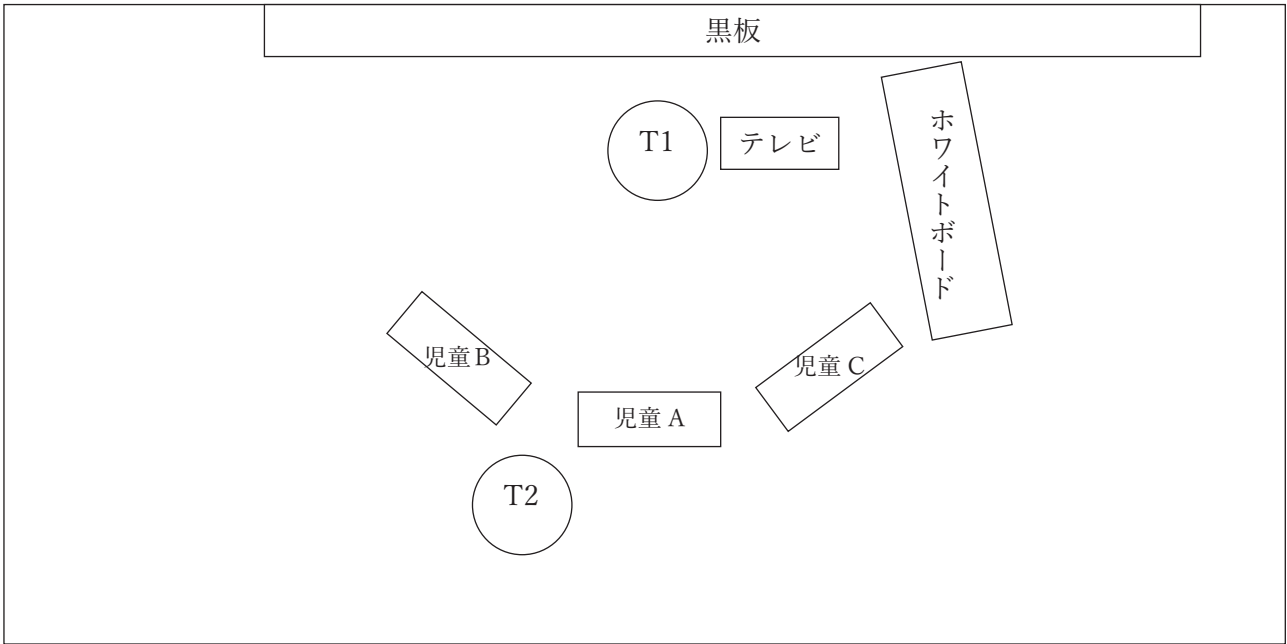
(3) 9月29日(水) 3時間目/全3時間

指導目標：友達の考えと自分の感じたことと比較しながら文章を考えることができる。  
自分の考えを文で表し、文の順序を考え作文を完成させることができる。

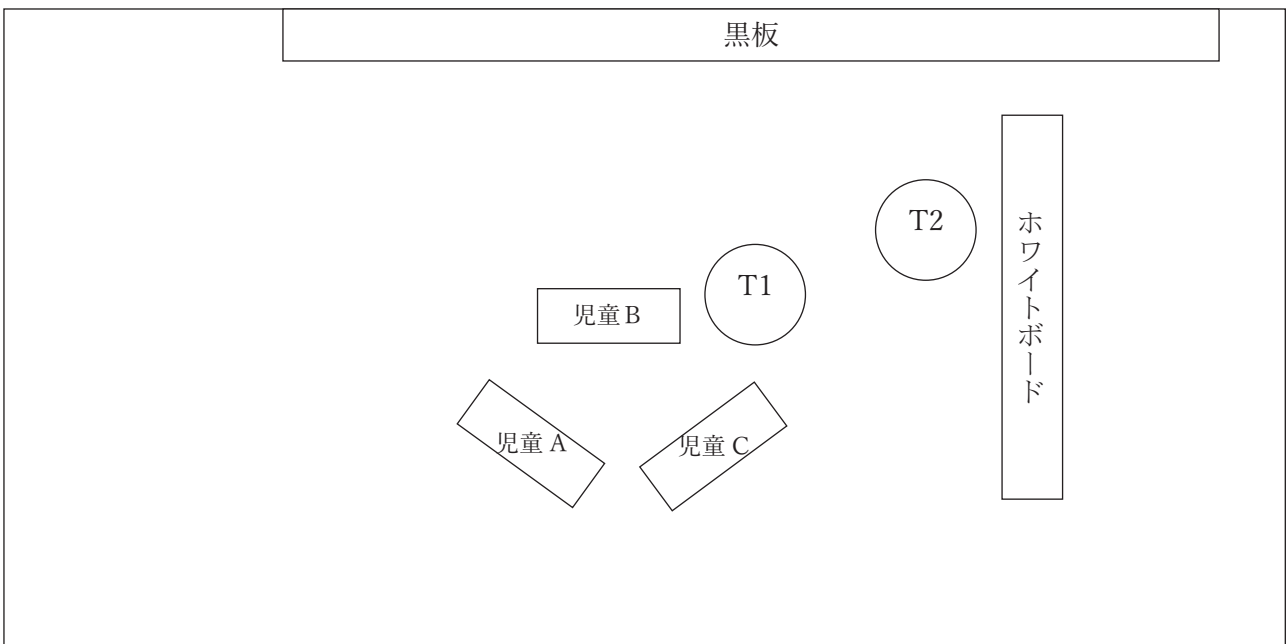
	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童A	児童B	児童C		
導入 15分	1 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジャー</li> </ul>	
	2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が注目をしていることを確認してから話を始める。</li> <li>手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>紙板書</li> </ul>	
	3 すごろくをする。 ・「○○の場合、どうする？」と書かれてあるマスを読み、答える。 ・すごろくを始める前に、児童もマスの質問内容を考え、付箋に書き、貼る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>応答の仕方が分かるように、T1とT2で例示する。</li> <li>発言者に注目するよう促す。</li> <li>マスに書かれている文の内容を読むよう促す。</li> <li>内容を理解しているか、T1が適宜質問し、確認する。</li> <li>主な活動の際にすごろくで学習した語彙を確認できるよう、T2は、質問と応答の様子をホワイトボードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。</li> <li>自分の考えをスムーズに発表できるよう、話し方の例を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の理解を促すために、単語に区切って確認をする。</li> <li>自分の考えをスムーズに発表できるよう、話し方の例を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書かれてある文の理解に専念できるように、漢字の使用に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すごろく用紙</li> <li>すごろく駒</li> <li>付箋</li> <li>筆記用具</li> <li>さいころ</li> <li>ホワイトボード</li> </ul>	
	4 学習課題を確認する。 ・めあてを音読する。  絵から想像して、物語を作ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたかを質問をし、確認を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>紙板書</li> </ul>	
展開 20分	5 前時の確認をする。 ・前時の学習で使用したメモを基に、絵に描かれている背景を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互に理解できるように、T1は児童の発言を手話と音声で繰り返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを自分の言葉で発表することに専念できるように、教員の復唱を促し、文法について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを自分の言葉で発表することに専念できるように、指さしや動作化を用いて伝えるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見の内容を理解するために、要点を手話や文字で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( )：評価方法
			児童A	児童B	児童C		
展開 20分	6 作文を書く。 ・文章を短冊に書く。 ・短冊を順番に並べ替える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T1は児童Bと児童C、T2は児童Aを中心に、考えたことを音声や手話、文字等で確認する。</li> <li>・漢字辞典アプリなどを使うように促し、考えを言葉で表現することのみ意識できるようにする。</li> <li>・文章を並べ替える際は、「起」「承」「転」「結」カードを提示し、文章の流れを確認しながら進めることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理することに専念できるように、復唱を促し、文章を組み立てを考えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理することにより、専念できるように、児童の発言を文章で示し、文章を組み立てることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字の苦手意識を軽減するために、言葉や漢字について、iPadのアプリや検索機能を用いて調べを促す。</li> <li>・言葉の選び方や、文章の適切な長さに気付くことができるよう、文章を読み返すよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「起」「承」「転」「結」カード</li> <li>・iPad</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ、言葉や文章に表している。(行動観察、ワークシート)</li> </ul>
終末 10分	7 作文を発表する。 ・音声や手話を用いて発表する。  8 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発表の際は、注目するよう声がけをする。</li> <li>・児童の発表後、完成した文をテレビに映し、児童の音声や手話表現に対応する言葉を確認できるようにする。</li> <li>・完成した作文を掲示し、学部の児童と教員に読んでもらい、「おもしろ賞」の表彰をすることを伝える。</li> <li>・振り返りのために、自分で書いた作文や友達の書いた作文を読むよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点に手話を用いて発表できるように、事前に確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad</li> <li>・テレビ</li> <li>・譜面台</li> <li>・おもしろ賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿を基に考えを発表している。(発表)</li> </ul>

7 配置図



<すごろく>





## 小学部第1・2学年自立活動学習指導案

日時：令和3年10月12日（火）5校時  
 令和3年10月13日（水）5校時  
 令和3年10月14日（木）5校時  
 令和3年10月15日（金）5校時  
 対象：岩手県立盛岡聴覚支援学校  
 小学部1年生2名 2年生1名  
 計 3名  
 場所：小学部1・2年1組教室  
 指導者：米倉照美（T1）及川よりこ（T2）

- 1 題材名 「ことばを覚えよう！上手に話そう！」
- 2 題材について

## (1) 児童について

対象児童は、小学部低学年の3名である。幼稚部から本校に在籍する児童、後天性難聴で補聴器装用後間もない児童など、補聴器や人工内耳の装用による聴覚活用の実態や発音の明瞭さ等の実態は様々である。3名とも口話と簡単な手話を併用し、個々の実態に応じ授業が進められている。休み時間などは身振りを用いて児童同士でコミュニケーションを取っている。

日本語の語彙の獲得や文法の理解は、学年や聴覚活用、手話活用の期間などにより、それぞれ実態が異なる。手話言語が中心で、自分の気持ちを手話や身振りを使って伝えようとするD、音声言語が中心で、簡単な内容であればすぐに理解できるE、文字を使って短く提示すると理解しやすく、音声言語と手話表出で自分の思いを伝えるFと、コミュニケーション手段の活用の実態は様々である。教員や友達の話を理解しようとする意欲は見られるが、話し手を最後まで見たり、分からないことは質問したりするなどのコミュニケーションの基本的事項については学習中である。

## (2) 指導について

指導に当たっては、教員や友達と情報や考えを伝え合う活動を通して、人と関わり合い、相手の伝えたい内容が分かる楽しさや、自分の考えを伝える楽しさを味わうことができるようにする。また、友達と伝え合い、協力して一つのことをやり遂げることへの達成感や喜びを十分に味わうことができるようにする。伝わる経験を積み重ねることで、他者とコミュニケーションを取りたいという意欲を高めることができるようにしたい。

学校生活全体を通して、話す場面では、「相手を見る」「大きな声で発表する／はっきりと手話表現をする」ことが身に付くように指導している。聞く場面では、「相手を見る」「相手の口や手話表現を見る」「最後まで見る」ことが身に付くように指導している。そこで、本単元でも話す場面と聞く場面を分けて設定し、それぞれの場面で集中して活動に取り組めるようにしたい。

児童の言葉、助詞、言い回しの間違いについては、その都度正しい言葉を伝えるようにする。また、音声での発言の際には、文字や手話で発言を繰り返し、手話での発言の際には、音声や文字等で助詞を補完しながら発言を繰り返すなど、相互に発言の内容が分かるようにしたい。

体を動かして言葉のイメージをつかんだり、伝言ゲームやクイズなどゲーム性のある活動を取り入れたりすることで、主体的に活動に取り組むことができるようにしたい。また、視覚教材を提示することで、文字と実物を結び付け、言葉の理解をより深めたい。

### (3) 研究との関わり

本研究では、三つの手立てで研究を進める。手立て1では、聴覚障がい教育における教員の専門性について調査を行い、教員の専門性の要素を整理した。その調査結果を受け、研究の手立て2として、「自立活動指導資料（試案）」（以下、「試案」という）を、次の構成で作成した。

#### ○第1章 聴覚障がい教育の基本的理解

聴覚障がい教育に携わる上で必要な専門的な知識及び指導のポイントを示した。

#### ○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（平成30年）」の聴覚障がいのある子供への具体的指導内容と留意点を整理した。

#### ○第3章 自立活動と各教科との関連～小学部を中心に～

小学部の各教科での指導と自立活動との関連や指導のポイントを示した。

作成した試案は、研究の手立て3として、聴覚障がい教育の専門的な視点を踏まえた授業実践を通して、その有効性を検証する。本授業で活用する試案の内容は、次のとおりである。

#### ○第1章 聴覚障がい教育の基本的理解

##### (5) 聴覚障がいのある子供のコミュニケーション方法

読話の際の配慮事項 (p. 12)

手話・指文字 (pp. 16-19)

##### (6) 言語指導

言語学習ステップ (p. 23)

##### (8) 重複障がいのある子供の特性と配慮事項

指導計画と配慮事項 (p. 27)

#### ○第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～

##### (2) 聴覚障がいのある子供の自立活動 (p. 44)

まず、言語に関する実態把握として、試案の巻末に示した資料1・2「話し方・聞き方に関する指導段階表」を活用し、現時点での児童の実態を把握する。次に、資料3「自立活動目標設定シート①」を活用し、目指す姿や身に付けさせたい力について検討する。さらに、資料4「自立活動目標設定シート②」から、実践場面を想定し、指導の手立てを検討する。本授業では、手話や音声で表現できる語彙を増やし、聞き方・話し方の基礎基本が身に付くようにしたい。

試案の活用を通して、聴覚障がい教育における専門的な視点を踏まえた授業展開を図ることで、教員の専門性と指導の充実につながるものと考えている。

### 3 題材の目標（選定した自立活動の内容6区分27項目は関連順）

- ・音声や手話で表現できる語彙を増やす。
- ・内容が分かるように、相手に伝えることができる。
- ・知っている語句に注目し、話の概要をつかむことができる。

【コミュニケーション】(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

【環境の把握】(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

【人間関係の形成】(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

## 4 児童の実態と本題材の目標

		D (小1)			E (小1)			F (小2)		
周波数		500Hz	1000Hz	2000Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz
聴力レベル (dBHL)	右							(110)	(110)	(110)
	左							45	60	65
装用時間値 (dBHL)		35	35	35	70	55	25	35	35	35
補聴器/人工内耳		右:人工内耳 左:人工内耳			右:補聴器 左:補聴器			右:装用なし 左:補聴器		
人間関係の形成	他者とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>やりとりは簡単な手話が中心である。</li> <li>友達の発表後には、「これは何？」などの定型の質問ができるようになってきた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>やりとりは音声を中心である。</li> <li>友達の発表後には、場所や人など定型の質問ができるようになってきた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>やりとりは音声を中心である。</li> </ul>		
	他者の意図や感情の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話での5W1Hの質問の意図が理解できず、要点をとらえて返答することが難しい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声に手話や文字を併用した簡単な質問には、おおよそ意味を理解して返答することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>教員と場面を詳しく振り返ることで、相手の気持ちを考えることができる。</li> <li>相手の反応を見て、分かりやすい言葉を使ったり、動作化したりすることができるようになってきた。</li> </ul>		
	自己の理解と行動の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>話が理解できないときは、友達の行動を見てから行動することが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の行動を見てから行動することが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験を基に、考えたことを行動に表すことができる。</li> </ul>		
環境の把握	保有する感覚の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工内耳の装用習慣が身に付いたのは、本校の幼稚部年長クラスに入学してからである。</li> <li>人工内耳や補聴援助システムを活用し、聴覚活用をしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>後天性難聴で、補聴器を装用して半年である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>右耳は補聴器を装用していない。左耳から音声が入りやすいように座席配置をしている。</li> <li>補聴器や補聴援助システムを活用し、聴覚活用をしている。</li> </ul>		
	感覚を総合的に活用した周囲の状況把握と状況に応じた行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話で理解している語彙が少ないため、指示理解が不明確である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に短い言葉を文字化することで理解が進み、行動することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単に短い言葉での指示を理解して行動することができる。</li> </ul>		
	概念の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話や指文字、身振り・手振り、表情、絵等を用いて、言葉の意味を理解している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>軽度の知的障がいと併せ有している。音声や手話、文字、写真等を用いて、総合的に言葉の意味を理解している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や絵、手話、身振り・手振り等を用いて、言葉の意味を理解している。</li> </ul>		
コミュニケーション	言語の受容と表出	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手の手話や指文字の模倣ができる。</li> <li>身近なものについては、簡単な手話で表現できるものもあるが、指文字や文字で確認すると分からないことが多い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名を読むことができる。学習場面では、文字で提示すると理解できることが多い。</li> <li>手話表現に興味があり、会話のやりとりを見て模倣することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した語句や概念を、生活の中で用いて話そうとする。</li> <li>拗音や促音、聞き間違いをしている言葉や字の表記間違いがある。</li> </ul>		
	言語の形成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度が低く、口話だけでは相手に伝わりにくい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度は比較的高い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>発音の明瞭度は比較的高い。</li> </ul>		
	コミュニケーション手段の選択と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>身振りや手話で会話をしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声と簡単な手話を併用して会話をしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声のみで会話をすることが多い。</li> <li>学部の集会などでは、理解している手話を用いて話そうという意識がある。</li> </ul>		
本題材の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>手話で表現できる語彙を増やす。</li> <li>伝えたい内容を教員と手話で確認し、手話で伝えることができる。</li> <li>手話と言葉を結び付けることができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声と手話で表現できる語彙を増やす。</li> <li>伝えたい内容を、音声や手話、文字で教員と確認し、相手に伝えることができる。</li> <li>手話やイラスト、文字と対応させて、話の内容を理解することができる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>音声で表現できる語彙を増やす。</li> <li>伝えたい内容を、要点に手話表現を用いて、音声で相手に伝えることができる。</li> <li>手話や音声を基に、話の内容を理解することができる。</li> </ul>		

## 5 題材の指導計画 (全4時間)

時	月日	学習内容	指導目標		
			個別の目標		
			児童D	児童E	児童F
1	10月12日(火) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝言ゲームや巨大ふくわらいの活動で、学習した表現を用いて相手にヒントを伝える。</li> <li>伝えている相手を見て、内容を読み取って行動する。</li> </ul> 学習語彙：前後左右、上下、真ん中、外等	<ul style="list-style-type: none"> <li>話している相手に注目して、方向や色、形などの表現を読み取ることができる。</li> <li>方向と数字を表現することができる。</li> <li>相手を見て、手話を読み取ることができる。【環】(4)</li> <li>方向と数字を手話で表現することができる。【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て、音声や手話を読み取ることができる。【環境】(4)</li> <li>方向と数字を手話で表現することができる。【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に注目して、表現を正しく読みとることができる。【人】(2)</li> <li>方向と数字を音声や手話で表現することができる。【人】(3)</li> </ul>
2	10月13日(水) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビンゴゲームや間違い探しの活動で、学習した表現を用いて相手にヒントを伝える。</li> <li>伝えている相手を見て、内容を読み取って行動する。</li> </ul> 学習語彙：名詞(秋に関する生き物、食べ物等)、動詞(落ちる、跳ぶ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>話している相手に注目し、方向や名詞など、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>ヒントカードを基に、考えた情報を伝えることができる。</li> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表すことができる。【環】(4)</li> <li>ヒントカードを指さし、教員と一緒に手話で自分の考えを表現することができる。【人】(3)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表すことができる。【環】(4)</li> <li>ヒントカードを見て、伝えたい情報を教員と一緒に音声や手話で表現することができる。【人】(3)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に注目して、音声や手話から大まかな内容を読み取り、行動に表すことができる。【人】(2)【環】(4)(5)</li> <li>ヒントカードを見て、伝えたい情報を音声や手話で表現することができる。【人】(3)</li> </ul>
3	10月14日(木) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>スリーヒントクイズの活動で、学習した表現を用いて、相手にヒントを伝える。</li> <li>伝えている相手を見て、内容を読み取り、考えを発表する。</li> </ul> 学習語彙：名詞(食べ物、動物等)、動詞(飛ぶ、切る等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>話している相手に注目し、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>ヒントを基に自分の考えをまとめ、発表することができる。</li> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表したり、考えを手話や身振りで表現したりすることができる。【人】(3)【環】(4)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表したり、考えを音声や手話で表現したりすることができる。【人】(3)【環】(4)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に注目して、音声や手話から必要な情報を読み取り、行動に表したり、考えを音声や手話で表現したりすることができる。【人】(2)(3)【環】(4)(5)</li> </ul>
4	10月15日(金) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラックボックスの活動で、学習した表現を用いて、相手にヒントを伝える。分からないときは質問をする。</li> <li>伝えている相手を見て、内容を読み取り、考えを発表する。</li> </ul> 学習語彙：名詞(食べ物、動物等)、動詞(飛ぶ、切る等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>話している相手に注目し、必要な情報を整理して読み取ることができる。</li> <li>ヒントを基に自分の考えを発表したり、質問したりすることができる。</li> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表したり、考えを手話や身振りで表現したりすることができる。【人】(3)【環】(4)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て手話を読み取り、行動に表したり、考えを音声や手話で表現したりすることができる。【人】(3)【環】(4)【コ】(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に注目して、音声や手話から必要な情報を読み取り、行動に表したり、考えを音声や手話で表現したりすることができる。【人】(2)(3)【環】(4)(5)</li> </ul>

## 6 展開（全4時間）

(1) 10月12日（火）1時間目／全4時間

指導目標：話している相手に注目して、方向や色、形などの表現を読み取ることができる。  
方向と数字を表現することができる。

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
導入 5分	1 挨拶をする。  2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読（手話表現）する。  3 学習課題を確認する。 ・めあてを音読（手話表現）する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">方向を表す言葉を覚えよう。話そう。</div>	・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。  ・児童の注目を集めてから話を始める。 ・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。  ・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたか、質問をし、確認を行う。				・ロジャー  ・紙板書  ・紙板書	
展開 30分	4 方向を表す言葉を覚える。 ・スライドから流れてくる方向「右」「左」等に合わせて声を出す。手話表現をする。	・活動の見通しが持てるよう、T1とT2で例示する。 ・音声で表現する児童には、T1の口形を見て、模倣するよう促す。 ・手話で表現する児童には、手指の形が分かりやすいように、T1が対面又は横並びで提示する。	・文字数の理解を促すため、教員の口形を見るよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・書き言葉の理解を促すため、言葉を指文字で表現する。	・テレビ ・パソコン	・方向に関する言葉を、音声又は手話で表現している。（行動観察）

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
展開 30分	5 伝言ゲームをする。 ・ヒントカードの確認(手話、音声) ・ブロックの並びを音声や手話で伝える(相手には自分のブロックが見えないようにする)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かるように、T1とT2で例示する。</li> <li>相互に理解できるように、音声で表現した児童には手話を復唱するよう促し、手話で表した児童には音声や文字、指文字で復唱するよう促す。</li> <li>自分で考えることが難しい児童には、T2がヒントカードを提示し、手話表現や言葉について確認する。</li> <li>伝言の様子を撮影し、完成後、お互いの伝言が理解できたか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字数の理解を促すため、教員の口形を見るよう促す。</li> <li>手話での理解を促すため、繰り返し表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。</li> <li>手話での理解を促すため、繰り返し表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。</li> <li>書き言葉の理解を促すため、言葉を指文字で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒントカード(色、形、方向)</li> <li>ブロック</li> <li>ついたて</li> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や色などの情報を、音声や手話から読み取っている。(行動観察)</li> </ul>
	6 巨大ふくわらいを完成させる。 ・マスで区切られたふくわらいの型紙の前にいる友達に、進む方向の指示を出し、顔のパーツを置いていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れが分かるように、T1とT2で例示する。</li> <li>相互に理解できるように、音声で表現した児童には手話を復唱するよう促し、手話で表した児童には音声や文字、指文字で復唱するよう促す。</li> <li>伝言ゲームで使用したヒントカードを用い、友達にヒントを与えやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話での表現につなげるために、教員と一緒にヒントカードを見て伝える内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声や手話での表現につなげるために、教員と一緒にヒントカードを見て伝える内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要点を手話で表現することにつなげるために、教員と一緒にヒントカードを見て伝える内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふくわらいの型紙</li> <li>ふくわらいの顔のパーツ</li> <li>ヒントカード(方向)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や数の表現を用いて、ヒントを伝えている。(発表)</li> <li>方向や数の表現を理解し、行動している。(行動観察)</li> </ul>
終末 10分	7 学習課題の振り返りと感想を発表する。 ・撮影した動画を基に、覚えた言葉を確認する。 ・感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を視聴する前に、見るポイントを伝え、注目できるようにする。</li> <li>児童の発表の際、注目するよう声がけをする。</li> <li>他の児童にとって難しい表現は、T1が表現を変えて伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話での理解につなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声や手話での理解につなげるため、口形を見る場面と手話を見る場面を分けて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要点を手話で表現することにつなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad</li> <li>テレビ</li> </ul>	
	8 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に使用したヒントカードを教室に掲示することを伝え、復習を促す。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒントカード</li> </ul>	

- (2) 10月13日(水) 2時間目/全4時間  
 指導目標: 話している相手に注目し、方向や名詞など、必要な情報を読み取ることができる。  
 ヒントカードを基に、考えた情報を伝えることができる。

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
導入 5分	1 挨拶をする。  2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読(手話表現)する。  3 学習課題を確認する。 ・めあてを音読(手話表現)する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「秋」の言葉を覚えよう。話そう。</div>	・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。  ・児童の注目を集めてから話を始める。 ・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。  ・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたか、質問をし、確認を行う。				・ロジャー  ・紙板書  ・紙板書	
展開 30分	4 秋の言葉に関わる言葉、それに伴う動詞などの語彙を、スライドを用いて学習する。 ・「もみじ」「くり」「(とんぼが)とぶ」「(葉っぱが)落ちる」等  5 秋の言葉ゲームをする。 ・ビンゴ用紙に秋に関するイラストを指示通りに貼る。	・活動の見通しが持てるよう、T1とT2で例示する。 ・音声で表現する児童には、T1の口形を見て、模倣するよう促す。 ・手話で表現する児童には、手指の形が分かりやすいように、T1が対面又は横並びで提示する。	・文字数の理解を促すため、教員の口形を見るよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・書き言葉の理解を促すため、言葉を指文字で表現する。	・テレビ ・パソコン ・iPad  ・ビンゴカード ・イラストカード ・ヒントカード(方向)	・秋に関する言葉、動詞を音声や手話で表現している。(行動観察)  ・話している相手に注目して、方向や秋に関する言葉を読み取り、行動している。(行動観察)

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( )：評価方法
			児童D	児童E	児童F		
展開 30分	6 間違い探しをする。 ・秋の様子が描かれたイラストを用い、「○○が～です」と発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しがもてるよう、T1とT2で例示する。</li> <li>・それぞれの活動に集中できるよう、イラストを見る時間、印を付ける時間、発表する時間を分ける。</li> <li>・理解が難しい言葉には、付箋に名称を書き、イラストと対応して確認できるようにする。</li> <li>・文章を考えることが難しい児童には、指さしを促し、分かる部分を音声や手話で伝えるよう促す。</li> <li>・イラストと文章が対応できるように、児童が発表した文章をT2が短冊に書き、イラスト下部につり下げる。</li> <li>・音声で表した児童には手話を復唱するよう促し、手話で表した児童には文字や指文字で復唱するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話での表現につなげるために、指さしで理解していることを伝えるよう促し、表現を教員と確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声や手話での表現につなげるために、指さしで理解していることを伝えるよう促し、表現を教員と確認する。</li> <li>・イラストに描かれているもの、事象と文章が対応できるように、単語に区切って音声や手話で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点を手話で表現することにつなげるため、理解していることを音声で伝えるよう促し、表現を教員と確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いさがしイラスト</li> <li>・付箋</li> <li>・テレビ</li> <li>・iPad</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋に関する言葉を覚え、手話や音声で伝えている。(発表)</li> </ul>
終末 10分	7 学習課題の振り返りと感想を発表する。 ・撮影した動画を基に、覚えた言葉を確認する。 ・感想を発表する。  8 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を視聴する前に、見るポイントを伝え、注目できるようにする。</li> <li>・児童の発表の際、注目するよう声がけをする。</li> <li>・他の児童にとって難しい表現は、T1が表現を変えて伝えるようにする。</li> <li>・学習に使用したイラストカードを教室に掲示することを伝え、復習を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話での理解につなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声や手話での理解につなげるため、口形を見る場面と手話を見る場面を分けて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点を手話で表現することにつなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad</li> <li>・テレビ</li> <li>・イラストカード</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストカード</li> </ul>	



(3) 10月14日(木) 3時間目/全4時間

指導目標：話している相手に注目し、必要な情報を読み取ることができる。  
ヒントを基に自分の考えをまとめ、発表することができる。

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( )：評価方法
			児童D	児童E	児童F		
導入 5分	1 挨拶をする。  2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読(手話表現)する。  3 学習課題を確認する。 ・めあてを音読(手話表現)する。  スリーヒントクイズをしよう。 ヒントを考えよう。 ヒントを聞いて答えよう。	・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。  ・児童の注目を集めてから話を始める。 ・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。  ・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたか、質問をし、確認を行う。				・ロジャー  ・紙板書  ・紙板書	
展開 30分	4 言葉を覚える。 ・スリーヒントクイズに必要な語彙を、スライドを用いて学習する。	・活動の見通しが持てるよう、T1とT2で例示する。 ・音声で表現する児童には、T1の口形を見て、模倣するよう促す。 ・手話で表現する児童には、手指の形が分かりやすいように、T1が対面又は横並びで提示する。	・文字数の理解を促すため、教員の口形を見るよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・書き言葉の理解を促すため、言葉を指文字で表現する。	・テレビ ・パソコン ・iPad	・音声や手話で言葉表現している。(行動観察)

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
展開 30分	5 スリーヒントクイズをする。 ・T2が解答者以外の児童にヒントを考えるものの写真を見せる。 ・解答者は、スリーヒントクイズボックスの中から正解だと思うものを探す。	・T1とT2で例示し、ルールを説明する。 ・解答者以外の児童は、ヒントカードを基にヒントを考えるようT2が促し、表現の仕方について確認する。 ・伝えた言葉、理解した言葉の違いを確認できるよう、解答者は、ヒントで理解できた言葉を、iPadに文字、絵、動画等でメモしておくよう促す。解答者以外のヒントを伝える様子を、動画に撮影する。	・手話での表現につなげるために、教員とヒントカードを確認し、ヒントの内容を考えることができるようにする。 ・時間が経っても友達のヒントで理解した言葉を同様に表現できるよう、iPadに絵や動画で記録するよう促す。	・音声や手話での表現につなげるために、教員とヒントカードを確認し、ヒントの内容を考えることができるようにする。 ・時間が経っても友達のヒントで理解した言葉を同様に表現できるよう、iPadに文字で記録するよう促す。	・要点を手話で表現することにつなげるため、伝えたいヒントの内容を音声で伝えるよう促し、表現を教員と確認する。 ・友達のヒントで理解した言葉を音声で確認し、必要であれば記録するよう促す。	・スリーヒントクイズボックス ・果物、動物の模型、車のおもちゃ等 ・クイズ用写真・イラスト ・ヒントカード（色、形、場所、季節等） ・iPad ・テレビ	・話している相手に注目し、必要な情報を読み取り行動している。（行動観察、iPadのメモ） ・色や形などの表現を用いて、ヒントを伝えている。（発表）
終末 10分	6 学習課題の振り返りと感想を発表する。 ・撮影した動画を基に、覚えた言葉を確認する。 ・感想を発表する。  7 挨拶をする。	・動画を視聴する前に、見るポイントを伝え、注目できるようにする。 ・児童の発表の際、注目するよう声がけをする。 ・他の児童にとって難しい表現は、T1が表現を変えて伝えるようにする。  ・スリーヒントクイズのメモと写真を教室に掲示することを伝え、復習を促す。	・手話での理解につなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。	・音声や手話での理解につなげるため、口形を見る場面と手話を見る場面を分けて確認する。	・要点を手話で表現することにつなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。	・iPad ・テレビ  ・iPad	

## (4) 10月15日(金) 4時間目/全4時間

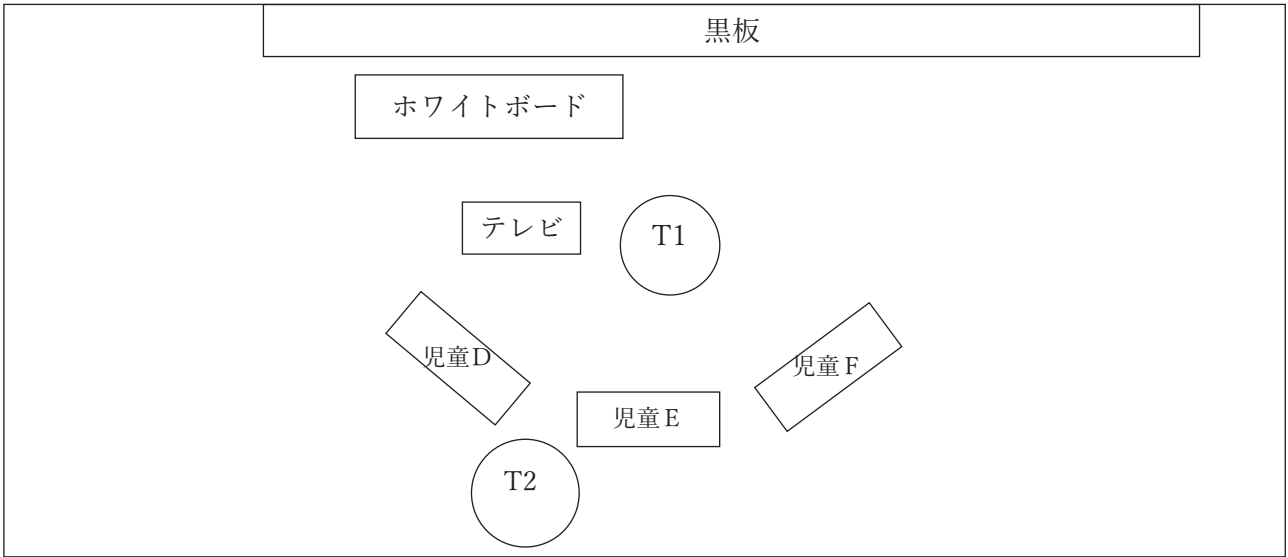
指導目標：話している相手に注目し、必要な情報を整理して読み取ることができる。

ヒントを基に自分の考えを発表したり、質問したりすることができる。

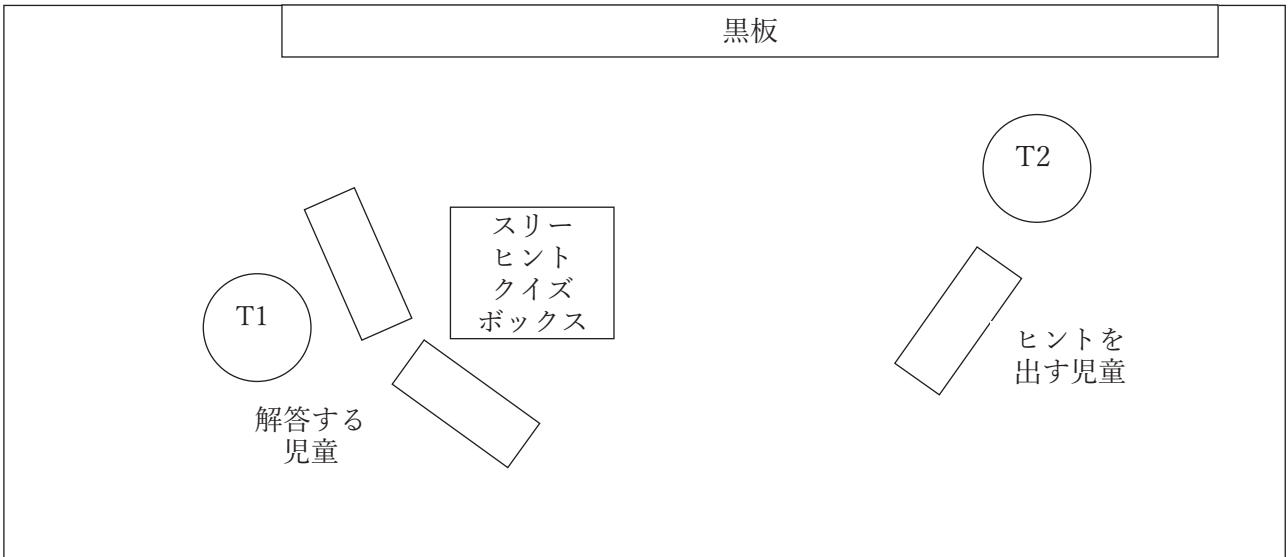
	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
導入 5分	1 挨拶をする。  2 本時の学習内容について知る。 ・学習内容を音読(手話表現)する。  3 学習課題を確認する。 ・めあてを音読(手話表現)する。  ブラックボックスゲームをしよう。 ヒントを考えよう。 ヒントを聞いて答えよう。	・補聴援助システムロジャーを使用し、聞こえの状態を確認してから始める。  ・児童の注目を集めてから話を始める。 ・手話を用いて、意味理解を促す。学習内容が理解できたかを質問し、確認を行う。  ・手話を用いて、意味理解を促す。めあてが理解できたか、質問をし、確認を行う。				・ロジャー  ・紙板書  ・紙板書	
展開 30分	4 言葉を覚える。 ・ブラックボックスゲームに必要な語彙を、スライドを用いて学習する。	・活動の見通しが持てるよう、T1とT2で例示する。 ・音声で表現する児童には、T1の口形を見て、模倣するよう促す。 ・手話で表現する児童には、手指の形が分かりやすいように、T1が対面又は横並びで提示する。	・文字数の理解を促すため、教員の口形を見るよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・手話での理解を促すため、繰り返し表現する。	・文字数の理解を促すため、口形を模倣するよう促す。 ・書き言葉の理解を促すため、言葉を指文字で表現する。	・テレビ ・パソコン ・iPad	・言葉を手話や音声で表現している。(行動観察)

	学習活動	指導上の留意点	個別の支援			教材教具等	評価規準 ( ): 評価方法
			児童D	児童E	児童F		
展開 30分	5 ブラックボックスゲームをする。 ・箱の一面が透明で、解答者以外に答えが見える箱に入れて中のものを触る。 ・解答者以外はヒントを伝える。	・T1とT2で例示する。 ・解答者以外にヒントカードを基に考えるようT2が促し、表現の仕方について確認する。 ・伝えた言葉、理解した言葉の違いを確認できるよう、解答者は、ヒントで理解できた言葉を、iPadに文字、絵、動画等でメモしておくよう促す。 解答者以外のヒントを伝える様子を、動画に撮影する。	・手話での表現につなげるために、教員とヒントカードを確認し、ヒントの内容を考えることができるようにする。 ・時間が経っても友達の手話で理解した言葉を同様に表現できるよう、iPadに絵や動画で記録するよう促す。	・音声や手話での表現につなげるために、教員とヒントカードを確認し、ヒントの内容を考えることができるようにする。 ・時間が経っても友達の手話で理解した言葉を同様に表現できるよう、iPadに文字で記録するよう促す。	・要点を手話で表現することにつなげるため、伝えたいヒントの内容を音声で伝えるよう促し、表現を教員と確認する。 ・友達の手話で理解した言葉を音声で確認し、必要であれば記録するよう促す。	・ブラックボックス ・果物、動物の模型、車のおもちゃ等 ・ヒントカード(色、形、場所、季節等) ・iPad ・テレビ	・話している相手に注目し、必要な情報を読み取り行動している。(行動観察、iPadのメモ) ・色や形などの表現を用いて、ヒントを伝えている。(発表)
終末 10分	6 学習課題の振り返りと感想を発表する。 ・撮影した動画を基に、覚えた言葉を確認する。 ・感想を発表する。  7 挨拶をする。	・動画を視聴する前に、見るポイントを伝え、注目できるようにする。 ・児童の発表の際、注目するよう声かけをする。 ・他の児童にとって難しい表現は、T1が表現を変えて伝えるようにする。  ・ブラックボックスのメモと写真を教室に掲示することを伝え、復習を促す。	・手話での理解につなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。	・音声や手話での理解につなげるため、口形を見る場面と手話を見る場面を分けて確認する。	・要点を手話で表現することにつなげるため、動画視聴の前後で表現を繰り返し確認する。	・iPad ・テレビ  ・iPad	

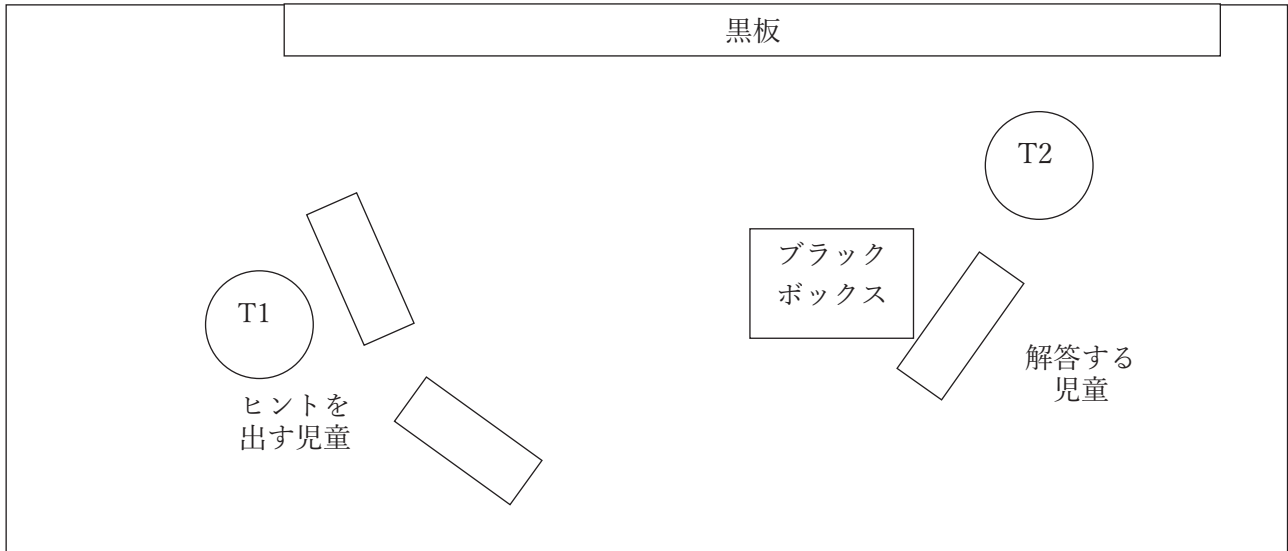
7 配置図



<スリーヒントクイズ>



<ブラックボックスゲーム>



「特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究（聴覚障がい）」  
に係る質問用紙

## <質問用紙の記入に当たってのお願い>

### ●目的

「自立活動指導資料（聴覚障がい）」（試案）を活用した授業実践を行い、指導資料の検証を行います。得られた結果を基に、「自立活動指導資料（聴覚障がい）」（試案）を修正し、完成を目指します。

### ●質問の回答について

この質問用紙は、幼稚部、小学部、中学部、高等部（専攻科含む）の指導教諭、教諭、講師、非常勤講師の先生方が御回答ください。なお、授業を参観できなかった先生方にも御回答をお願いいたします。

### ●調査結果の取扱いについて

- （１）当該研究において調査結果を活用します。
- （２）調査結果は、研究報告書、教育研究発表会等で公表します。
- （３）公表に当たっては、特定の個人を識別することはありません。

### ●提出方法、締め切り

調査用紙は、**10月15日（金）**までに、各学部研究部員に提出をお願いいたします。

授業実践①、②の両方を参観した先生	p. 2～4の全ての問いに御回答ください。
授業実践①（小学部6年）のみを参観した先生	p. 2～4の全ての問いに御回答ください。
授業実践②（小学部1・2年）のみを参観した先生	p. 2の問1と問2、p. 4の問4と問5に御回答ください。
授業を参観できなかった先生	p. 4の問4と問5に御回答ください。

本研究に係る授業を参観していただき、ありがとうございました。

授業で活用した「自立活動指導資料（聴覚障がい）」（試案）について、改善点や工夫点等、御意見を伺い、資料の修正のため、参考にさせていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

**問 1** 授業実践①、②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の「第1章 聴覚障がい教育の基本的理解（5）聴覚障がいのある子供のコミュニケーション方法、（6）言語指導」は、聴覚障がい教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業で活用できるものになっていますか。次の（ア）～（エ）から、あてはまるものに○を付け、その理由も御記入ください。

	（ア） になっている
	（イ） やや になっている
	（ウ） あまり になっていない
	（エ） になっていない

【理由】

**問 2** 授業実践①と②で活用した「自立活動指導資料（試案）」の「第2章 自立活動の指導～自立と社会参加を目指して～（2）聴覚障がいのある子供の自立活動」は、聴覚障がい教育の授業づくりの視点の分かりやすさ示され、授業で活用できるものになっていますか。次の（ア）～（エ）から、あてはまるものに○を付け、その理由も御記入ください。

	（ア） になっている
	（イ） やや になっている
	（ウ） あまり になっていない
	（エ） になっていない

【理由】

問3

授業実践①で活用した「自立活動指導資料（試案）」の「第3章 自立活動と各教科の関連～小学部を中心に～（1）指導上の配慮事項、（2）各教科との関連①国語」は、聴覚障がい教育の専門的な視点や内容が分かりやすく示され、授業で活用できるものになっていますか。次の（ア）～（エ）から、あてはまるものに○を付け、その理由も御記入ください。

	（ア） になっている
	（イ） やや になっている
	（ウ） あまり になっていない
	（エ） になっていない

【理由】



問4 「自立活動指導資料（聴覚障がい）」（試案）全体を通して、改善してほしい点や工夫を要する点がありましたら、御記入ください。

--

問5 自立活動の授業以外に、今後どのような場面で「自立活動指導資料（聴覚障がい）」を活用してみたいと思いますか。次の（ア）～（ケ）から、あてはまるものに○を付けてください。他に考えられるものがある場合は、御記入ください。（複数回答可）

	（ア） 子供の実態把握
	（イ） 個別の指導計画や年間指導計画の立案
	（ウ） 各教科等での指導（教科等を合わせた指導）
	（エ） 校内研修
	（オ） 校内研究
	（カ） 新任者研修
	（キ） 相談支援や教育相談
	（ク） 進路指導
	（ケ） 保護者や各関係機関との連携

【その他】
-------

御協力ありがとうございました。